

病防第12号
平成18年5月16日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

麦類赤かび病の発生状況（技術情報第3号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

記

1. 麦類赤かび病の発生状況の概要（別紙1）

小麦では平均発病穂率2.8%（平年5.8%）、発病度0.4（平年1.0）、発生ほ場率66.7%（平年71.4%）と平年並の発生であった。

大麦では平均発病穂率1.3%（平年0.6%）、発病度0.2（平年0.1）と平年並の発生であったが、発生ほ場率は50.0%（平年27.3%）と平年よりやや高かった。

2. 赤かび病被害粒の取り扱いについて

収穫においては、赤かび病被害を受けた麦と健全な麦を別に行い、被害粒の混入を防止する。共同乾燥施設では、収穫物を荷受時にチェックし、被害の激しいものは別途乾燥する等、仕分けの徹底を行う。

3. 今後の留意点

現在、赤かび病は平年並の発生であるが、今後の気象により発生が増加することも考えられる。出荷する際は赤かび病被害粒に十分留意する。

（参考）

1) 麦類の病気の一つである赤かび病は、フザリウムというかびが原因であり、かび毒であるデオキシニバレノール（Deoxynivalenol: DON）を作る。

2) 平成15年産麦（大麦を含む）からは、農産物検査規格のうち食用麦の赤かび病被害粒の混入率が、これまでの1.0%から0.0%（1万粒のうち4粒まで）に引き下げられた。また、小麦において一層の安全性を確保するために、DONの暫定的な基準値が1.1ppmと設定された。

別紙1

平成18年度 麦類赤かび病の調査結果
コムギ

調査日 平成18年5月11日

	地点名	発病穂率	発病程度				発病度
			0				
1	玉名市北牟田 1	3	97	3	0	0	0.5
2	" 北牟田 2	4	96	3	1	0	1.0
3	" 北牟田 3	1	99	1	0	0	0.2
4	山鹿市御宇田	1	99	1	0	0	0.2
5	山鹿市鹿本町小島	1	99	1	0	0	0.2
6	菊池市赤星 1	1	99	1	0	0	0.2
7	" 赤星 2	1	99	1	0	0	0.2
8	" 七城町砂田 1	5	95	5	0	0	0.8
9	" 七城町砂田 2	2	98	2	0	0	0.3
10	大津町灰塚 1	3	97	3	0	0	0.5
11	" 灰塚 2	4	96	4	0	0	0.7
12	御船町小坂 1	3	97	3	0	0	0.5
13	" 小坂 2	0	100	0	0	0	0.0
14	甲佐町糸田 1	2	98	2	0	0	0.3
15	" 糸田 2	0	100	0	0	0	0.0
16	嘉島町上六嘉 1	4	96	4	0	0	0.7
17	" 上六嘉 2	0	100	0	0	0	0.0
18	" 鯨 1	0	100	0	0	0	0.0
19	" 鯨 2	0	100	0	0	0	0.0
20	城南町永 1	19	81	19	0	0	3.2
21	" 永 2	0	100	0	0	0	0.0
23	富合町新 1	11	88	0	0	0	0.0
24	" 新 2	0	100	0	0	0	0.0
	平均値	2.8	発生圃場率	66.7 %			0.4
	昨年値	1.5	"	68.0 %			0.3
	平年値(5年間)	5.8	"	71.4 %			1.0

オオムギ

	地点名	発病穂率	発病程度				発病度
			0				
1	山鹿市鹿本町小島 1	0	100	0	0	0	0.0
2	" 小島 2	1	99	1	0	0	0.2
3	菊池市赤星 1	2	98	2	0	0	0.3
4	" 赤星 2	3	97	3	0	0	0.5
5	" 七城町砂田 1	6	94	6	0	0	1.0
6	" 七城町砂田 2	0	100	0	0	0	0.0
7	大津町新 1	1	99	1	0	0	0.2
8	" 新 2	0	100	0	0	0	0.0
9	" 新 3	0	100	0	0	0	0.0
10	" 新 4	0	100	0	0	0	0.0
11	御船町小坂 1	2	98	2	0	0	0.3
12	" 小坂 2	0	100	0	0	0	0.0
	平均値	1.3	発生圃場率	50.0 %			0.2
	昨年値	0.6	"	36.4 %			0.1
	平年値(5年間)	0.6	"	27.3 %			0.1

1 1圃場において100穂調査

2 発病程度 0:発病無し :穂の1/3以下が発病
:穂の1/3~2/3が発病 :穂の2/3以上が発病

3 発病度 = {6 + 3 + / (6 × 調査茎数)} × 100